

2.要 約

ジャマイカ国南部地域保健強化プロジェクトは健康教育と疾病予防に焦点をあて保健システムを強化すべく、1998年6月より5年間の協力期間で実施されている。具体的な活動としては、保健医療施設調査や生活習慣調査等からなるベースライン調査を実施中であるほか、集団健康診断の手法の検討や、必要となる個別の技術移転、さらに健康教育用マテリアルの検討などが実施されている。

本調査団は、プロジェクトのこれまでの活動結果を踏まえ、協力期間終了までの活動計画および方向性につき確認すること、さらに保健医療情報と健康教育に関する協力のあり方について検討することを目的として派遣された。

については、詳細活動計画(Detailed Implementation Plan ; DIP)を作成することで、プロジェクト開始時に暫定実施計画として合意した活動計画を、より具体的な形でジャマイカ側と確認するに至った。DIPを活用することで、各活動の進捗管理がより効率的に行われることが期待される。一方でプロジェクト全体の枠組みを整理するためには、現在実施中のベースライン調査が完了ししだい、プロジェクト・デザイン・マトリックスを作成する必要がある。

の保健医療情報については、現在南部保健地域における保健医療情報の管理状況を確認したうえで、今後の協力のあり方について検討し、プロジェクトが実施する生活習慣調査や集団健康診断についてはコンピューターを用いて効率的なデータ管理と利用を行うことが合意された。また病院ですでにコンピューター化が図られている患者インデックスファイルとの連携可否についても検討するべきである。他方、ヘルスセンターや病院の書類管理については改善の余地は認められるものの、ジャマイカ側のニーズとプロジェクトのなかでの位置づけを整理したうえで検討する必要がある。

の健康教育については、ベースライン調査等により問題の所在を確認することが重要であるとの認識のもと、積極的な情報収集の必要性を指摘するとともに、地域住民へのアプローチに関する留意点を指摘した。また視察の際に確認できた健康教育の状況をまとめるとともに、保健従事者の職種と役割を確認した。